

平成22年度「高校交通教育の実践」モデル校事業報告書

学校名	高知県立高知海洋高等学校	課程	③・定
校長名	森 誠一	担当者	山脇 正範
所在地	〒781-1163 高知県土佐市宇佐町福島1 Tel 088-856-0202 Fax 088-856-3078		
生徒数	男子 130名	女子 22名	合計 152名
通学手段	徒歩：18名	自転車：76名	原付：37名
	バス：16名	電車：0名	その他：5名
特色	<p>本校は高知県唯一の水産・海洋系専門高校であり、恵まれた施設や環境を活用し、知識、技術習得の教育実践を通して、豊かな人間性を育て、生徒自らが社会貢献したいと思うような人材の育成を目指すことを教育目標としている。</p> <p>学校近辺までの公共交通機関は、路線バスのみであり、便数も少ないことから通学に不便を感じている生徒も多い。そのため1年次より原動機付き自転車（以下原付バイク）免許の受験を許可するとともに、2年次より原付バイクの通学を認めている。</p> <p>また、原付免許証取得生徒は全員、交通安全運転講習会（実技）への参加を義務づけている。</p>		

1 実施状況

(1) 取組テーマ

- ①定期的な交通安全指導による、生徒の交通ルールの遵守と安全意識の高揚。
- ②PTA・警察等との連携による、交通事故の未然防止。

(2) 取組内容

①原付バイク通学許可説明会及び実技講習

(実施日 4月5日、8月30日)

原付免許証を取得した生徒で、通学を希望する者に対して、保護者同伴で説明会に参加してもらい、通学ルールや交通安全について親子で学習をしてもらった。

本校においては、一昨年度に専攻科生の原付バイク死亡事故が発生し、昨年度においても11件の登下校時における原付バイクの事故（専攻科生含）が発生しているため、生徒はもちろんのこと保護者にも交通安全について意識してもらい、学校と家庭が連携して交通事故の未然防止に努めることを目的としている。

説明会終了後、生徒は通学するバイクで、「スラローム走行」、「8の字走行」、「一本橋走行」、「波状路走行」を内容とする実技講習に参加し、各走行をクリアできた後通学許可証を発行した。また、保護者にも実技講習を見学してもらい、運転技術の未熟さを確認することで、各家庭での交通安全指導の必要性を認識してもらっている。

②原付バイク安全点検

(実施日 4月19日、5月19日、6月17日、7月15日、9月16日、
10月19日、11月18日、12月16日、1月19日、2月16日)



毎月1回、原付バイク通学生の車両点検を実施して、生徒の交通安全に対する意識の高揚を図った。

車両点検において、最も多い違反内容は純正ではない「マフラー」の付け替えである。その他、ウインカー等の安全装置の不具合等もあり、整備不良に起因する交通事故の未然防止のためにも、毎月実施することで、生徒に緊張感を持たせるようにした。

③交通安全街頭指導

(実施日 4月20日、5月20日、6月18日、7月16日、9月17日、
10月20日、11月19日、12月17日、1月20日、2月17日)

毎月1回、登校時に生徒会執行部が中心になって校門前及び学校周辺の交差点に立ち、登校する生徒に交通安全指導を行うことで交通安全に対する意識の高揚を図った。

本校では、原付バイク通学生生に対してポイント制を導入しており、交通違反をした場合、ポイントを減点するが、交通



安全街頭指導に参加した場合はポイントを加算するようにしているので、一般生徒も参加する場合がある(写真上)。

また、本事業を利用し交通安全の横断幕を作成し、交通安全街頭指導時や学校行事等で活用する事により、地域の方々へも本校の取組をアピールするとともに、交通安全の啓発を図った(写真左)。



④自転車安全点検

(実施日 4月23日)

本校までの公共交通機関は、路線バスのみであり、便数も少ないことから1年生は自転車通学をする生徒が多い。また、比較的遠距離を通学していることから、入学後の早い時期に自転車安全点検を実施している。放課後、自転車通学生を集合させ、ライト・ブレーキ・反射板等を点検し、不具合が無ければ通学許可ステッカーを配布して生徒自らに貼らせることで、交通ルール遵守の意識付けを図った。



⑤家庭で行う交通安全指導

(実施日 4月7日)

交通事故の未然防止は、学校だけではなく各家庭の協力も不可欠なことから、入学式を利用して保護者に交通安全指導の協力要請を呼びかけた。

高校は、小中学校と比較すると校区が広くなり、通学距離も長く、新しい通学路による不慣れや危険区域の把握の不十分さから事故の発生が予測される。また、2年生以降になれば原付バイク通学も通学手段として選択肢に入ってくることから、本校における交通安全ルール全般についての説明を行うと共に、保護者に交通事故等についての危険性を認識してもらい、交通事故の未然防止に努めた。

⑥原付免許受験許可説明会

(実施日 7月16日、12月24日)

原付免許の取得を希望する生徒に対して、保護者同伴で説明会に参加してもらい、免許取得についてのルールや取得後の原付バイク使用時の注意を行うと共に、交通安全について親子で学習をしてもらった。

⑦交通安全運転講習会

(実施日 10月5日)

高知県警察本部や高知県交通安全協会・交通安全指導員等の協力により、交通安全について学習をした。この取組は、本校において全校生徒が参加する唯一の取組であり、交通安全の意識の高揚を図るとともに、交通事故の未然防止を目的として、重要な位置づけをしている。



講習会は、講演を全校生徒で聴いた後、原付バイク通学生を中心とした原付免許証取得生徒と未取得生徒に分かれて実施する形式をとった。

まず、土佐警察署交通課長から、交通安全についての心構えや交通事故の現状等に関する講演をしていただいた。その後、原付免許証未取得生徒は体育館において、視聴覚教材を利用して、交通事故を題材としたビデオ視聴を行った。



一方、原付免許証取得生徒は、本校前庭において高知県警交通機動隊員と地元の交通安全指導員からバイクの実技指導を受けた。交通機動隊員の模範走行の後、各自が自分のバイクを運転して「一本橋走行」や「スラローム走行」を体験することで、自身の運転技量の確認と運転技術の向上に努めた。



⑧教科における交通安全学習

(実施日 3学期の1年生における保健の授業日)

「保健」の授業を利用して、1年生全員を対象に交通安全学習を行った。「セーフティ・アクション21」のワークシートを活用し、自分が交通事故にあった場合の対応方法や交通事故を目撃した場合の対応方法を学習し、緊急時には冷静な行動が求められることを認識させた。生徒には、軽微な交通事故について簡単に考えている傾向があり、また、適切な対応方法を知らない生徒もいるため、ワークシートを活用して交通事故をイメージさせることができたので、非常に学習効果が上がったと考えている。

⑨アンケートの実施

(7月16日、12月24日、2月28日)

年間を通しての取組の成果を確認するために、上記の日時に全校生徒を対象に交通安全アンケートを実施した。

(結果は別紙参照)

⑩安全運転についての意識の高揚

自転車通学生やバイク通学生の中には、デジタルオーディオプレーヤー等にイヤホンを接続して、音楽を聴きながら登下校している生徒が多い現状がある。そこで、本事業を利用して横断幕(写真下左)を作製し、駐輪場に常時掲げることで、生徒への注意喚起を行っている。

また、遠距離を自転車で通学している生徒も多いため、下校時における安全確保のために、本事業を利用して自転車リフレクターを一括購入し、未装着の生徒の自転車に取り付けた。(写真下右)



2 成果と今後の課題

(1) 成果

- ① 学校が把握をしている登下校時の事故は、昨年度は11件であったが、今年度は4件(2月28日現在)となっており、減少している。また、交通安全アンケートの設問4でも、交通事故にあった経験が、1学期は32%だったのに対して3学期は14%と18ポイント減少しており、良い結果が得られた。
- ② 授業で「セーフティ・アクション21」のワークシートを利用することで、具体的事例を提示することができ、生徒の理解が深まったと考えている。使用する教科書だけでは具体的事例が不足しており、生徒が交通事故に対するイメージを持ちにくい場合があるため、「セーフティ・アクション21」の活用は効果的であったと考えている。

- ③ 生徒の交通安全に対する意識が徐々に高まってきたことにより、交通違反を正直に学校に報告し、毎月実施している交通安全街頭指導へ自ら参加する姿勢が、生徒に見られるようになってきた。
- ④ 交通安全アンケートの設問1で、通学中の「ヒヤッ」とした経験や「危ない」と感じた経験がない割合が、1学期の50%から3学期は63%に増加している。年間を通しての取組により、生徒の登下校時における交通安全意識が高まり、事前に危険を回避する行動が取れるようになってきたと考えられる。

(2) 今後の課題

- ① 交通安全アンケートの設問4で、学校側が把握している以上に事故にあっている生徒が多いことが判明した。これは、軽微な接触ぐらいでは学校に報告しない生徒がおり、幸い大きな事故に繋がっていないだけという状況であると判断している。生徒が事故の危険性を認識し、緊張感を維持することで危険回避ができる効果的な指導方法の確立が急がれる。
- ② アンケートで、学年が上がるにつれて交通ルールを遵守する姿勢が希薄になっている傾向がみられる。特に2年生からバイク通学が許可になり、最初の頃は慎重に運転していた生徒が、慣れるにしたがって横柄な運転になっているのではないかとと思われる。
- ③ 交通マナーのよくない生徒が一部におり、地域から苦情が学校に寄せられるケースがある。今後このような生徒をどのように指導し、いかに交通ルールの遵守やマナーの向上を図るかが大きな課題である。

1年 保健 学習指導案

高知県立高知海洋高等学校 1年A組 男子23名 女子2名
平成23年1月26日(水) 1時間目 授業者 柳本 朋幸

本時の学習と指導

交通社会における運転者の資質と責任

～もし事故にあったら、見たら～

(1) 題材設定の理由

安全な運転のために、生徒自身に必要なとされるものが何であるかを考えさせ、交通事故防止について、自主的、主体的にとらえ、的確な行動がとれるようにしたいと考えて設定した。

(2) 本時のねらい

- ① 事故現場に居合わせたときの基本的な行為を、ワークシートの解答と代表者の発言を通じて具体的に理解できるようにする。
- ② 事故を安易に処理することのないようにする。
- ③ 事故を現実のものとして考える態度を育てる。

(3) 準備

セーフティ・アクション21(社団法人 日本自動車工業会発行)のワークシートをプリントする。(p68問題1・2)

時間	学習活動と内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	1・本時のねらいと 内容の説明 2・ワークシートの 利用方法の説明	○本時のねらいと学習方法に ついて説明を聞く。	○代表者が発言を行うために 心の準備をさせておく。

<p>展開 40分</p>	<p>1・自転車乗車中に事故にあったときの対応の仕方</p> <p>2・身近でひき逃げの事故が起こった場合の対応の仕方</p>	<p>○自転車で四輪車と接触事故を起こしたときの対応の仕方についてワークシートの問題1のケースA～Cについてその対処法を考える。</p> <p>① ケースAについて、代表者の発表</p> <p>② ケースAについての質疑応答</p> <p>③ ケースBについて代表者の発表</p> <p>④ ケースBについての質疑応答</p> <p>⑤ ケースCについて代表者の発表</p> <p>⑥ ケースCについての質疑応答</p> <p>○ワークシートの問題2の解答を代表者に発表させ、その発言をもとに学習を深める。</p>	<p>○それぞれのケースについて自由に発言をさせ、そのうちの代表者に対処法について意見を述べさせる。</p> <p>○代表者の意見をもとに質疑応答を行わせる。</p> <p>○事故で冷静さを失うことなく対応することが大切であることを伝える。</p> <p>○後遺症がでる可能性を強調する。</p> <p>○運転者には事故を警察に知らせる義務があることを伝える。</p> <p>○次のことに留意をして質疑応答をさせる。</p> <p>①警察への事故の通報</p> <p>②相手側の住所、氏名、連絡先の確認</p> <p>③医師の診断</p> <p>④損害賠償等</p> <p>⑤発生時間、場所の確認</p> <p>⑥周囲への協力要請</p> <p>○次のことに留意をして質疑応答をさせる。</p> <p>①目撃情報、走り去った車の記録(ナンバー、車種、色等)</p> <p>②ケガ人の救護</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>1・事故は人生を左右することを確認</p> <p>2・事故にあったら警察への通報等を冷静に行うことの確認</p>	<p>○事故の際には通報などを冷静に対応することを確認させる。</p>	<p>○事故は当事者にとっては人生を左右する大きな出来事であることを理解させる。</p>

平成22年度原付自転車安全運転講習会指導案

日 時	平成22年10月5日(火)	場 所	体育館及び前庭
生徒数	1年73名 2年39名 3年40名 合計152名 実技受講生徒29名		
時 間	内 容		
5分	学校長挨拶(講師紹介も含む)		
5分	交通安全協会挨拶 土佐支部長 廣瀬輝幸 氏		
20分	交通安全講話 土佐警察署 中山 哲 交通課長 ・全国的な交通事故状況、高校生の関係する事故や違反行為等、登下校時を含む注意しなければならない交通安全に関する知識を再確認させる。		
90分	<p>実技講習・ビデオ視聴</p> <p>免許証取得者(2・3年生)は実技講習のため前庭に移動。免許証未取得者及び1年生は、体育館にて交通安全ビデオ視聴。</p> <p>○実技講習(前庭)</p> <p>講師 特別指導員 宮本哲男 氏 笹岡建成 氏 地元指導員 高知県警交通機動隊員</p> <p>※一本橋走行、スラローム走行、波状路走行、急制動等の実技講習</p> <p>○ビデオ視聴(体育館)</p> <p>交通安全に関するビデオの視聴。(早く終了した場合は前庭に移動し、実技の見学)</p> <p>全ての内容が終了次第、生徒は各教室に移動し、帰りのSHを行う。</p>		

海洋高校交通安全アンケート結果

1 今学期に入ってから現在までに、通学中に「ヒヤッ」とした経験、「危ない」と感じた経験はありますか。

項目	1学期	2学期	3学期
A 今学期中はなし	50%	57%	63%
B 今学期中に1回程度ある	25%	15%	16%
C 1ヶ月に1回程度ある	7%	9%	8%
D 1週間に1回程度ある	8%	6%	3%
E ほとんど毎日ある	10%	13%	10%

2 「1」でB～Eを答えた人は、それはどのようなケースで発生しましたか(複数回答可)

項目	1学期	2学期	3学期
A 相手側の違反行為	19%	18%	14%
B 一時不停止・安全確認不足	15%	13%	14%
C 飛び出し	14%	13%	15%
D 前方不注意	11%	9%	14%
E 傘差し運転	2%	4%	3%
F スピードの出し過ぎ	15%	13%	13%
G 並列走行	6%	8%	8%
H 自転車右側通行	6%	5%	4%
I 自転車や原付の整備不足	3%	6%	3%
J その他	9%	11%	12%

3 「1」でAを答えた人は、それはなぜだと思いますか(複数回答可)

項目	1学期	2学期	3学期
A 気を抜かないから	25%	24%	27%
B 時間にゆとりをもつから	17%	15%	15%
C 周囲に気を配るから	18%	23%	24%
D 危険な場合は停止するから	15%	13%	9%
E 交通法規を守るから	15%	15%	13%
F その他	10%	10%	12%

4 今学期中に、小さな事故を含めて、交通事故にあった経験はありますか。

項目	1学期	2学期	3学期
A ある	32%	22%	14%
B ない	68%	78%	86%

5 「4」でAを答えた人は、事故の相手を教えてください。

項目	1学期	2学期	3学期
A 車	40%	47%	38%
B 自転車	17%	17%	13%
C バイク(原付を含む)	9%	3%	25%
D 歩行者	0%	3%	0%
E 外壁など	9%	11%	6%
F 自損事故	14%	8%	6%
G その他	11%	11%	12%

6 「4」でAを答えた人は、その事故を警察や学校に届けましたか。

項目	1学期	2学期	3学期
A 届けた	39%	46%	25%
B 届けなかった	61%	54%	75%

7 2学期中の登下校の状況を振り返り、交通ルールを守ることができたと思いますか。

項目	1学期	2学期	3学期
A 守れた	50%	52%	68%
B だいたい守れた	34%	36%	24%
C あまり守れなかった	12%	7%	4%
D 守れなかった	4%	5%	4%